地図に見る釜ケ崎のうつりかわり

質屋に何もかも入れてしまい、金ができたら第一番目に「釜」を出して米をたいたから、「釜が先」＝「釜ケ崎」なんだという話を釜に来たてのころ聞いて、ナルホドうまいことつけたなあと感心したものだ。

だが、「釜ケ崎」という地名は、大正一四年に西成郡今宮村が、大阪市西成区と変わるまで実際にあった。まだ畑だった頃の話である。

いつ頃から「釜ケ崎」という名がつけられたのかはわからないが、大昔は、この辺は海岸だったらしい。「萩之茶屋なんていう名に変わるまでは、西入船、東入船、浜道、甲岸、曳船などという海に関係したような地名が残っていた。その海岸だったころに、塩をとるための塩焼き釜があったので、「釜ケ崎」というのが、一番もっともらしく聞こえる話である。

残念なのは、「釜ケ崎」と印刷した地図が見あたらなかったことだ。俺が来たころはどの地図にも「釜ケ崎」と書いてあったが、「あいりん」なんて名を強制する人々のせいか、いつの間にかなくなってしまった。

唯一、郡さんの書いた昭和初期の地図に、今宮警察釜ケ崎派出所というのがでてくる。これは俗称ではなく正式名称だったようだ。

戦国時代、石山本願寺が今の大阪城のところにできて、それまで、田んぼと畑だった大阪が、急に門前町として栄えだし、秀吉によって大阪城がつくられるや、一躍、大きな町になった。そして南蛮貿易の拠点、堺との往来は激しくなり、その道は紀州街道となり(西成警察前の銀座通り)、その大阪の町なみのはずれに貧乏人用の木賃宿ができた。

今の動物園の北の端あたりは、大分昔(いつどろかは知らない)から、四天王寺の施薬院、悲田院といった、いまのたき出しやら医療相談のテント村みたいのがあったので、自然と宿無し連中が集ったから、当時の三街道の出入口の中で一番貧乏なのが集った。これが「釜ケ崎」の元祖「長町」のはじまりである。現在の日本橋電気屋街のところだが、地図一を見てもらえばわかるが、紀州街道(住吉街道)にそって細長い町だから、「長町」と呼ばれるようになった。「名護町」とか「名呉町」と書いてる本もあるが、「長町」のあて字だろうと思う。

この当時は、地図一を見てもらえばよく分かるが、今の釜のあたりは一面の畑だった。そして、飛田のところに刑場と墓地があった。これは、あいりん会館の前の通りに「太子地蔵」というのが残っていて、そこに「飛田墓地の碑」がある。元禄四天王寺の墓地だったらしい。

この飛田刑場で打ち首になった首を、紀州街道にさらして、通る旅人に見せたともいわれ、飛田は刑場と墓地だけで、他は沼だったそうだ。

江戸時代の中頃から、この長町の木賃宿に農村からの出かせぎがくるようになった。「力役者」とよばれた彼らは油絞り、米つき、酒造りがほとんどで、どれもしんどい仕事だ。

明治時代になって職業が自由になると、多くの農民がドッと都会にでてきた。しかし、働くところがそんなに急に増えるわけがないから、場末の安宿、長屋に集まる。こうして長町はどんどん大きくなっていった。その安い賃金をあてにして、マッチ工場やタバコ工場ができた。

長町の木賃宿や長屋にも金がなくて住めない連中は、その頃は湿地帯だった水崎町や霞町にバラックを建てて住みだした。こうして、長町は南へひろがり、南の方ほど貧乏人が多くなっていった。この辺のことは、別掲の「貧天地飢寒窓探検記」に詳しい。

元和五年（一六一五）　旅人宿許可（東海道入口一片町南海道入口一長町、西海道入口の三ケ所）
寛文三年（一六六三）　力役者用木賃宿許可
寛政七年（一七九五）　萩之茶店開店
慶応四年（一八六八）　長町のみ無宿人宿泊許可
明治四年（一八七二）　長町にコレラ発生
七年　飛田墓地、阿倍野斎場へ
一八年　阪堺鉄道（南海本線）ナンバー大和川間開通
二一年　大阪市内で木賃宿廃止
二二年　大阪鉄道（国鉄関西本線）湊町ー柏原間開通
二七年　日清戦争始まる
三〇年　大阪市第一次市域拡大（関西線より北側の今宮村は大阪市になる）
三三年　天王寺線（南海）開通
三六年　第五回内国勧業博覧会
日露戦争始まる
四四年　阪堺線開通（恵美須町ー浜寺間）
四五年　自　館開設
通天閣、ルナパーク完成
大正二年　財団法人大阪職業紹介所恵美須町に開く、

明治二一年には、長町の悪化におそれをなした当局は、大阪市内での木賃宿の営業を禁止した。この頃は浪速警察の北の高速道路のところまでが大阪市だった。

貧乏人は南へ南へと追いたてられた。三〇年には、関西線までが大阪市になり、木賃宿は関西線の外(つまり、今の釜ヶ崎)に追い出された。

三六年には、今の新世界のところで第五回内国勧業博覧会が行なわれ、多くの長町の住人が働らいたはずだ。ところが天皇がくるというので、その通り道にあたる長町はジャマ(?)たというので、関西線の外へ強制的に立ち退きさせたらしい。今だったら、立退き反対でもおこるだろう。

これが、釜の地理的移りかわりだが、この頃はドヤの住人も、今のような日雇い労働者よりも、他の仕事の方が多かったようだ。一番多いのは行商と屑拾いのようだ。

この頃の立ちん坊は、一心寺の前の坂の下で立っていて、通りかかる荷車のあと押しをして銭をもらっていた。(これは坂場先曳といわれ、他に平野街道、長柄街道、十三街道にいた)、あとは天満、木津市場付近、梅田、湊町の駅、道頓堀、長堀、築港等の川筋に集まっていた。

大正一三年の大阪市の調査によると、築港(仲仕千二百アンコ二五〇)、四貫島(アンコ二五〇)、川口町(仲仕二

今宮診療所、市設質館、今宮産院も続いて開設

三年　第一次世界大戦始まる

四年　天王寺動物園できる

六年　今宮村内ドヤ四四軒

七年　飛田遊廓できる

八年　宮津町(関西線北側今高より)に今宮共同宿泊所、市立簡易食堂開く　(米騒動)

九年　(大恐慌始まる。この頃より朝鮮人大量に来日移住)

一三年　ナンバー天下茶屋高架複線化

一四年　今宮村、玉出村、粉浜村、津守村、大阪市に入り、西成区となる。

昭和八年　地下鉄一号線(御堂筋線)開通、動物園前駅できる

一〇年　ドヤ五九軒

一五年　ナンバー住吉線(現国道二六号線)開通

一七年　地下鉄三号線、大国町ー花園町間開通

二〇年　大阪大空襲

二四年　南海新今宮駅開設

二五年　西成職安、東萩町に移転(現あいりん職安南分室)

百)　板島(アンコ百四〇)　朝日橋(アンコ百)　木津川、安治川筋(石炭仲仕千、倉庫仲仕千七百、蔵仲仕五百)　大正橋付近(アンコ二五〇)　今宮付近(アンコ三五〇)　湊町駅(仲仕五百、アンコ五〇)　天王寺(仲仕四〇、アンコ四〇)　京橋(アンコ千百)　高麗橋(アンコ五〇)　梅田駅(仲仕千五百)　天六付近(アンコ百)、天満橋(アンコ七〇)　寺町(アンコ四〇)

この頃はアンコ(日雇い、土方)より仲仕の方が圧倒的に多い。今では、港湾や駅の合理化がすすみ、仲仕の数が減って、かわりに、職種のふえた建設日雇いが増えている。

この頃は又、朝鮮人が大量に日本に流れこみ、土方になっていった。彼らは明治末の日本の朝鮮支配によって土地を奪われた農民であり、日本に来ても、土方になるしかなかった。今宮中学校から環状線までの間には、朝鮮人専門の労働下宿が何軒かあったと同調査にも書いてある。

この頃日朝鮮人が、戦後ガンバッて飯場を持ち、人夫出しのオヤジになっていったわけだが、これは別の機会に報告しよう。　(ア)

二六年　朝鮮戦争始まる

三一年　売春防止法成立、三七年四月一日施行(六〇年安保斗争)

三六年　第一次山谷暴動おこる

第一次釜ヶ崎暴動　大阪府労働部西成分室設置　防犯コーナー設置

三七年　あいりん学園、あいりん　、あいりん会館、あいりん銀行できる

労働部西成分室、西成労働福祉センターに変更

四一年　第四次釜ヶ崎暴動　港湾労働法施行

四四年　全港湾西成分会発足

四五年　(万国博覧会)　あいりん総合センターできる

四七年　鈴木組斗争、釜ヶ崎共斗会議生れる

四八年　住居表示変更(海道町、入船町等の地名が消される)

五〇年　千成ホテル火事五人焼死

挿地図①文化三年作摂州大阪地図　②明治一八年大阪近傍図　③明治四一年大阪近傍図　④昭和一四年郡昇作氏作　⑤昭和四二年日地出版発行大阪区分地図